

克己心身を練れ
勤勉実力を養え
至誠事に当れ

第187号 令和4年7月29日(金) 静岡県立富士高等学校
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fuji-h/home.nsf>

静岡県富士市松本17番地
電話 (0545) 61-0100

コロナ禍を乗り越える

令和4年度PTA会長 中澤智彦

皆様には日頃より富士高校のPTA活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

今年度、会長を務めさせていただくこととなりました中澤智彦と申します。

今年で創立100周年を迎える歴史ある富士高校のPTA会長という大役を仰せつかることとなり、その責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。先日PTA総会で各議案が承認され、今年度の活動が始まりました。これからも皆様と協力して有意義な一年間にしていきたいと思っております。私自身、現在単身赴任をしております富士市に住んでいない為、融通がきかず至らぬ点も多いかと思いますが、副会長始め皆さま方のご協力をいただき精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響でPTA行事はもちろん様々な行事やイベントが制限されてきました。私には大学生の娘と高校2年の息子がおりますが、娘のインターハイ、文化祭、体育祭、息子の中体連、修学旅行も中止になりました。現在息子が所属している野球部も一昨年の夏季大会はなくなり、昨年の夏季大会は行われたものの、秋大会は保護者の入場も制限されました。そのような状況でしたが、多くの卒業生や先生方、地域の方々のご協力をいただき、学校生活を送ることができましたこと、大変ありがたく感謝しております。

直近の活動に関して報告させていただきます。

5月14日土曜日 富士高にてPTA総会実施

会員総数 823名 委任状提出者 427名

出席者 377名 出席率 45.8%

多くの方に参加頂きありがとうございます。

6月1日水曜日 ホテルグランドヒルズ静岡にて

静岡県公立高等学校PTA連合会に、杉山校長先生・田中先生・杉林前会長・中澤の4名にて参加してきました。各高校コロナ禍の為、PTA活動に関しては、制限のある中での活動だったようです。その中で、新たな取り組みを行った高校もあったようでした。今後の活動に活かせる事は、参考にしていただければと考えております。

6月4・5日 富嶽祭

昨年・一昨年はコロナ禍の為、かなりの制限が有る中での実施や中止でしたが、保護者の参加に関しては、規制があったものの、コロナ禍以前に近い状態で実施出来たように感じました。

高校生活の中でも、思い出に残る学校行事になるので、来年も今年以上に制限が無い状態で実施出来ることを願います。

今後ともご迷惑をおかけすることが多いかと存じますが、引き続き皆さまのお力添えを賜り、尽力していく所存です。変わらぬご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

富嶽祭に参加して

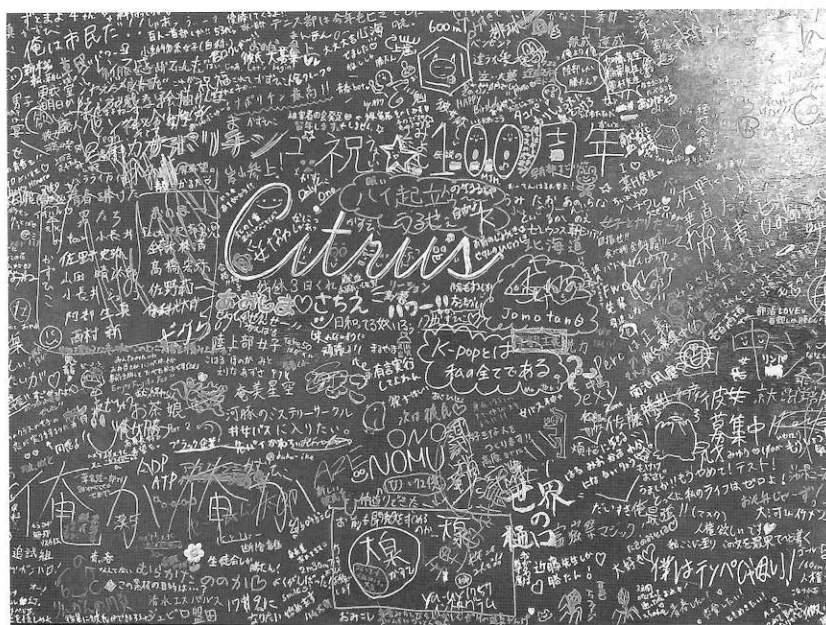
PTA副会長 小笠原 長純

今年は、私たち保護者にとっても待ちに待った富嶽祭が開催されました。というのも、コロナ禍にあり、一昨年は開催自体が中止され、昨年はライブ配信での開催となり、1年生の保護者はもちろんのこと、2年生も私たち3年生の保護者も、初めて来校しての富嶽祭の参加となりました。

6月5日(日)の文化の部では、全ての教室やパフォーマンスを見ることはできませんでしたが、どの生徒からもマスク越しにその楽しそうな表情が窺え、また、多くの制限がある中で、生徒たちが考え工夫し、来場者たちを楽しませようと一生懸命取り組んだ成果が見られ、とても感動しました。

また、6月8日(水)の体育の部は、残念ながら3年生の保護者のみの参加となってしまいましたが、3年生が色とりどりの浴衣を着て踊る民謡から始まり、各種目では、真剣に、そして何よりも楽しそうに競技する生徒たち、また、声が出せない中、メガホンや手を叩き学年の垣根を超えて応援しあう生徒たちの姿が見られ、胸が熱くなりました。

富嶽祭は、先生方をはじめ、富嶽祭実行委員の皆さんの準備、そして何より、富士高の生徒一人ひとりが仲間たちと作り上げた成果であり、生徒だけでなく、私たち保護者にとってもいい思い出となりました。





PTA親睦球技大会の報告

富士宮支部長 小泉 剛

去る6月26日の日曜日、2年間中止を余儀なくされたPTA親睦球技大会が富士高校グラウンドにて行われました。競技はグラウンドゴルフでした。コロナによる中断前のソフトバレーボール大会では各支部によるアツい勝負が展開され、それはそれは盛り上がっていた、とのお話を聞いておりました。コロナ禍も3年目を迎え、密に関する緩和が徐々に始まり、去年は「開催は無理なのでは?」と思っていた状況も変化してきました。しかし2年のブランクにより球技大会未経験者ばかりになってしまったPTAの皆様が、果たして参加してくれるのだろうか……と、不安に駆られながら募集を掛けさせて頂いたところ、富士宮で32名、富士で25名、吉原で21名の参加、さらに杉山校長先生、長島副校長先生までご参加頂ける、なんとも盛大な球技大会になりそうな気配がして参りました。それまで、

「まあ、何名かは参加してくれるだろうけど、どうせ雨でしょ。」などと軽く考えていたため、思いを新たにし、設営をきちんとしなくちゃ、と富士宮支部体育委員と会合を実施しました。

初めてグラウンドゴルフを体験した時、何も教わずにプレイしたことを思い出し、事前レクチャーは無しで良いと判断しました。支部対



抗も考えましたが、個人競技ですし保護者同士分け隔てなく触れ合ったほうがいいのでは、との考えから支部バラバラの個人戦で組を構成しました。いかがだったでしょうか？

しかし、天気はギリギリまで気になりました。体育館競技はそれがない分気が休まるなあ、と感じました。結局雨模様どころか熱中症に気を付けなければ、という予報になり、この時期の天気の変化を実感した次第です。

そして当日、午前8時より本部設営・コースづくり・景品梱包など役員の皆様の手際よい仕切りで準備は進み、参加者も順調に受付を済ませ、午前10時に開会式を行いました。杉山校長先生から「自分が赴任してPTAの皆様とこうして触れ合うのは初めてで、とても嬉しい。」というお言葉を頂き、こちらが逆に嬉しく思いました。ルール説明・ラジオ体操（富士高体操は無理でした。）少しの練習時間を経ていよいよ競技



開始！ですが、そこまで非常にスムーズな運営だったのを誰かがやっかんだのでしょうか、開始10分で突然の降雨です。一時中断し富士川方面



を見ると、暗雲が垂れ込めております。快方には向かわないかも……と不安を感じながらも、雨足が弱くなったところを見計らって競技を再開しました。幸いにもその後は雨も止み、予定通り8ホールを2周することが出来ました。参加者全員で後片付けをして頂き（感謝！）表彰式を行い、成績上位者・優秀チーム・ホールインワン達成者に景品を贈呈しました。講評として長島副校長先生よりお褒めのお言葉を頂きました。ありがとうございます。プレイしながらの印象ですが、校長先生のやる気と負けん気（雨中の再開をうながす動き）、副校長先生のソフトな感触（パッティング？）、とても好感が持てました。また支部・学年の隔たりなく、保護者の皆様のふれあいも感じられました。実施出来て本当に良かった、と感じました。お手伝い頂いた先生方、役員の皆様、参加してくれた皆様、本当にありがとうございました。

知的好奇心を高める ～自然に興味をもつ、疑問をもつことの意義～

副校長 長島 康雄

先日、校外で富士市の防災に関する講話に参加する機会があり、南海トラフ地震や富士山噴火が起きた場合の被害想定や対策などについてお話を伺いました。地震といえば……

私がまだ中学生だった時、東京大学地震研究所助手（当時）の石橋克彦氏が、「近い将来駿河湾を中心とする地域で巨大地震が発生する」と

いう衝撃的な説、いわゆる東海地震説を発表し、国をあげて地震予知に向けてさまざまな研究が行われてきました。当時は強い恐怖心を持ち、当時の木造校舎では冬に強い風が吹くと窓枠ががたがた揺れ、地震だ！とドキッとしたことが何回もありました。それから、40年以上経ち、地震研究は進み、地震予知は難しいこと、想定

が東海地震より広範囲の南海トラフ地震と変わってきています。

大学進学にあたり、「地震は怖い！」けれど、なぜ、駿河湾で地震が起こるのか？予知できるのか？という疑問を強くもつようになり、地震に関わる学部に進学をしました。大学卒業後、自然の魅力、様々な自然現象の原理、それがわかった時の感動を与えていきたいと思い、高校の理科の教員になりました。

話は変わりますが、今年、富士高校は創立100周年を迎えます。11月11日には記念式典、記念イベントがロゼシアターで行われます。今回の式典では、著名人による記念講演ではなく、記念イベントとして、各界で活躍されている本校卒業生4名の方をパネリストにお迎えして、「富士高の歴史と未来」というテーマで、パネルディスカッションを行います。また、富嶽祭でも、生徒会が依頼し、富士高卒の著名人に色紙でメッセージをいただき展示をしました。このように富士高の卒業生は様々な分野で活躍されています。本校の正面玄関の横に顕彰碑がある戸塚洋二先生もそのお一人です。皆さんもご存じのようにニュートリノの研究でノーベル賞も確定とも言われた方ですが、残念ながら2008年、まだこれからというときに他界されてしまいました。20年程前ですが、戸塚先生の研究に触れる機会をもつことができました。

当時、私は、静岡教育委員会主催の教育ルネッサンス21(学びの心)「地球・宇宙・未来発見の旅」という企画に理科の教員として携わりました。全県下から高校生を募り、名古屋大学の教授が中心となり、3泊4日の日程で名古屋大学、神岡鉱山、乗鞍岳などをめぐる旅で、選抜された24人の高校生が参加をしました。科学に触れるだけでなく、名古屋大学の教員や学生をチューターとして、4、5人のグループでテーマを設定し、最終日に発表するという企画でした。自ら応募してきた高校生たちは、訪問先で目を輝かせ、驚き、感動し、また、チューターの指導のもと夜遅くまでいろいろ議論を重ね、最終日に、素晴らしい発表をしてくれました。

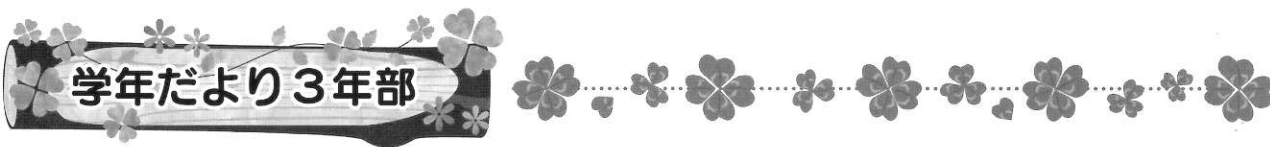
この企画で戸塚先生が施設長をつとめていた宇宙素粒子研究施設スーパーカミオカンデを訪

問しました。神岡鉱山の地下千メートルにあり、直径、高さがともに約40mの巨大な円筒形タンクに5万トンの水が蓄えられ、その壁に1万3千本の光電子増倍管が設置されています。素粒子ニュートリノをこの光電子増倍管でとらえます。目に見えない、感覚では捉えられないものを観るために作られた巨大な施設で、宇宙の解明につながる研究をしている場所に自分がいること自体が大きな感動であり、私の知的好奇心も刺激されました。

昨今、知識を問うテレビ番組がたくさんあり、楽しく拝見させていただいています。多くの知識をもつことは大切で評価できます。ただ、それがゴールではありません。身に付いた知識や技能を、社会の中で生かす力が求められます。そこで、本校では卒業までに身に付けたい力として8つの能力(富士高エイト)を設定し、様々な教育活動を通して育成していくことを目指しています。教科の授業や心見考での探究活動は、富士高エイトの育成に直結します。様々な現象に対して、興味や疑問を持ち、なぜそうなるのかと思う気持ちが強いほど、探究に取り組む意欲も高まり、能力が力も付くのではないのでしょうか。

このように学業や探究活動に取り組むにあたり、知的好奇心は大きなモチベーションになります。身の回りの自然などとの出会いがあり、そこに興味・関心や疑問をもち、どのような原理でその現象が起こるのか知りたい、理解したいというのが知的好奇心です。身の回りの自然現象などに触れ、感じる機会を多く持つことが大切です。今回、自然現象に焦点を当てて話しましたが、対象は必ずしも自然科学に限るものではなく、人文科学などでも同様です。広い視野を持ち、さまざまな事柄に知的好奇心をもってあたることができればいいのではないのでしょうか。





学年だより3年部

入学以来、数々の学校行事が自粛となり、悔しい思いや悲しい思いをしてきた3年生たちでしたが、やっと、普通の学校行事が行われるまでの環境になりました。生徒を支えなければならない、我々教職員が次に心配したのは、この2年間、先輩たちの活動を見ることができなかった生徒たちに、どのような活動ができるのか、でした。しかし、その心配をよそに、3年生たちは、最上級生として新たな挑戦とともに新しい富士高校の方向性を示してくれました。大きな成長を感じた3日間、いや、1学期でした。

第3学年主任 野村 保

全身全霊

生徒会長 鈴木 康 峰

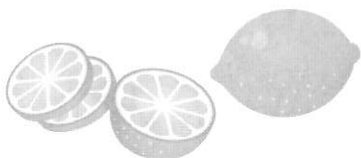
私たち3年生は、1年時は富嶽祭中止、2年時は校内発表のみと見事に新型コロナウイルスの影響を受けてきた学年だった。しかしながら今年は、制約はあったものの、3年ぶりに悲願の一般公開にこぎ着けることができた。そして目標に向かって誰もが皆、全力で準備に取り組み、盛大に富嶽祭を開催することができた。私は終始、感無量だった。

しかし、入学してから初めての一般公開に、さらには新型コロナウイルス対策など、考えること、やらなければならないことが山積みだった。どうすれば良いか右往左往してしまうこともよくあった。そんな時でも一人一人が自分の仕事を一生懸命全うする努力を続けてきたからこそ、今回の富嶽祭がより充実したものになったのだと思う。

今年の富嶽祭は、「オール富士高」のみならず、多くの方の協力の下、キッチンカー5台誘致、つけナポリタンの販売、トイレトレーラー展示、百周年記念企画の本校著名有名人の色紙展示、装飾の活性化、デジタルパンフレット作製など、新たな企画にも例年以上に多く挑戦することができた。

この先、『Citrus』という言葉や、響きを、見聞きする度に、初夏のこの一コマが一際鮮明に感動としてよみがえるのだろう。まさに一生の思い出だ。

最後に、一緒に準備を進めてきた素晴らしい仲間、先生方、お世話になった全ての方に、心より感謝している。



感謝

体育の部実行委員長 奥山 楓 騎

延期された日も天気予報が不安定でしたが、無事体育の部が実施できたことを嬉しく思います。

今年も、コロナ禍で制約の多い中、体育委員で話し合いを重ね、「何をしたいのか」「何ができるのか」と一から考え直した行事でした。

新種目「俵持ち」では、各学年の意地と意地がぶつかり合い最後の最後まで勝負がわからず、大いなる盛り上がりを見せました。また、応援合戦では、それぞれの学年で工夫が見られ、学年の絆がより一層深まったのではないのでしょうか。

体育の部を通じて多くの方々のサポートによって、行事は成り立っていることを改めて感じることができました。そして、それは日常生活のどんな場面でも同様であり、そういう支えてくださっている方の存在に気づき、感謝する人間でありたいと心より感じました。ありがとうございました。

伝統の改革

応援団長 大石 雄 登

今年度の体育祭も昨年同様、例年とは異なるものでした。応援合戦では、VIVA富士高等の応援団による各種マーチを行うことはできませんでしたが、十分な距離をとり、ダンスをすることはできました。それについてはチアリーダーを中心に各クラスが練習に励み、当日は各学年全力の応援をすることができました。競技中の応援はマスクを着用し、声援の代わりにメガホンを使用しました。結果的に全学年、応援団を中心に盛り上がることはできたと思います。

皆さんも誰かに応援されて、心が熱くなった経験があると思います。強い仲間意識や信頼が、時に想像を超える結果を引き起こす事もあります。応援団の良き文化を継承しつつ、新しい応援の在り方を模索していきたいと思います。

学年だより2年部

2年生 心見考の活動について

4年目を迎えた総合探究

総合探究が本校でスタートした時から、担当の教員を中心に、研修会や発表会に参加をしたり、他校に視察に行ったりしながら、富士高生により良い探究活動になるよう、試行錯誤を繰り返してきました。「心見考」としての活動も4年目を迎え、多くの学校外の方からの協力もあり、形が出来てきました。活動の中で、全国レベルの発表会に出場したり、メディアの取材を受けたりして評価されていることもありました。

また、富士高生に身に付けたい力として、わかりやすく8つの力を挙げています。心見考の時間を通して、教科の学習だけでは学べないような力を身に付けてほしい、また、教科の学習にも心見考で身に付けたスキルを活かしてほしいと考えています。

富士高エイト

- | | | | |
|----------|--------|--------|-----------|
| 1. 視野の広さ | 2. 主体性 | 3. 行動力 | 4. 論理的思考力 |
| 5. 協働性 | 6. 協調性 | 7. 柔軟性 | 8. 傾聴力 |

2年生の新たな挑戦～ディベート大会

〈2年生の心見考の目標〉

- ・ 広く深い視点を探究. 広く深い視点で探究

《自己理解・社会課題探究・その他》 ※探究スキルの実践

さて、2年生では1学期、探究スキルの実践として、今年度新たにディベートの活動を取り入れました。生徒たちは、決められたテーマについて賛成の意見を述べるチームと、それに対して反対するチームに分かれます。ディベートは、話す順番やその時間、そして反駁の仕方など厳密なルールがあります。まずは、そのルールの説明と、ディベートの例を生徒に示しました（4月5月）。生徒はチームに分かれ、クラスで練習をした後、他のクラスのチームと“対戦”します（7月）。

初めての試みではありますが、5月までの活動を見ていると、生徒たちも興味を持って取り組んでいるようです。この活動を通して、様々な問題を一つの視点だけではなく様々な視点で見ることを、そして自分の意見を述べるときに、客観的な根拠を挙げ、論理的に説明することを身に付けることを期待しています。

3年生の活動に向けて

6月の2回の活動では「逆引き大学辞典」を活用して、自分のやりたいことから大学を探す作業をしました。どのような情報を得たか、7月には発表をする予定です。志望別にグループを作り、それぞれが情報を共有します。この活動は、3年生での「20年後の未来と私」というスピーチに向けた活動にもつながっています。進路に対する意識をお互い高めあう場として有意義なものにしていきたいと考えています。





高校に入学して4ヶ月経ちました。クラスや部活動などで新しい友と出会い、行事や日々の生活・学習を通して、成長している姿が見られます。これからも失敗を恐れず様々なことに挑戦してほしいです。

第1学年主任 石川 貴子

部活動

11HR 大島 健

僕は高校で演劇部に入学しました。今まで経験したことのない演劇の世界に足を踏み入れるのはかなり勇気が必要でしたが、今では自分の選択は間違っていなかったと思えるほど楽しく部活動をしています。実際、新しいことに挑戦するのは勇気が必要ですし、全てが成功するとは限らないと思います。しかし、そんな中でも挑戦することを忘れず、3年間悔いのない部活ができるようにしたいと思います。

富嶽祭 ~体育の部~

12HR 遠野 功也

僕は、今回の富嶽祭体育の部を通してクラスの絆がとても深まったように感じました。高校が始まってから2か月が経過した中で今回の体育祭がクラス全員で協力する初めてのイベントでした。クラスで協力した全員リレーや大縄跳びでは、練習回数が少ない中で、全員で声を掛け合ったり、様々な意見を出したりして優勝を目指しました。そして、全員リレーでは1年の部優勝、大縄跳びでも記録を更新しました。とても良い思い出となりました。

高校生活について

13HR 渡邊 香恋

4月、新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に入学してきました。電車通学に7時間授業、部活動とこれまでよりも朝は早く、帰りは遅い大変な生活になりました。また、慣れない環境に不安や緊張を感じ、疲れが出てしまうこともありました。そんな時、一生懸命取り組む仲間が良い刺激となり、私も頑張ることができました。これからも互いに切磋琢磨しながら、未来に向かって進んでいきたいです。

校歌指導

14HR 佐野 遥斗

入学して間もなく、皆さんには朝早くから応援の練習に参加していただきました。練習の中では、元気よく校歌を歌おうとしたり、応援団からの要求に応えようとして皆さんの沢山の努力が見られました。全力の応援で、仲間の全力のプレーを支えられる。そし

て仲間の喜びや笑顔が生まれる。当たり前のように、応援の最大の魅力ではないかと思います。今後も全員で暖かい応援を作っていくために皆さんのご協力をお願いします。

心見考

15HR 藤田 理一

今回、心見考について考えたことを書くにあたって、何を書くべきか迷っている。まだ入学して2か月しか経っていない。ただ、月並みな表現になってしまうが、心見考はとても有意義な時間であると感じている。高校生の目線で考え、それを仲間と共有することは自らの心を育むことにつながると思う。これからはそれらを積極的に表現していくことが必要だと思っている。自信を持って、胸を張って、自分達のアイデアを発信する力を伸ばしていきたい。

部活動

16HR 大友 萌々佳

私は山岳部に入りました。5月の県大会で優勝したので、8月の全国大会に行くことができます。高校生になってあまり時間がたっていない不安な中で、優勝できて全国大会に行けるのは先輩や顧問の先生方のおかげです。山に入ってから練習はとても大変でした。荷物を敢えて重くして時間を気にしながら歩くのは体力だけでなく強い精神力が必要です。また、学校の勉強と筆記試験の勉強を両立させるのも大変です。全国大会でみんなで優勝したいし、この経験を通して色々な面で成長できる気がします。なので今は、今できることに力を尽くしたいと思います。

富嶽祭 ~文化の部~

17HR 羽田野 百伽

今年の富嶽祭は3年ぶりに一般公開が行われた。保護者と中学3年生のみであったが、大いに盛り上がりを見せていた。全ての部活の展示やパフォーマンスはクオリティーが高く、私は圧倒された。富嶽祭を通じて、仲間と助け合うこと、自分から仕事を見つけて動くことの大切さを学んだ。1週間前からは毎日完全下校時刻ぎりぎりまで練習、準備をした。その努力があらわれた最高の行事だったと思う。来年も良い文化祭を作っていきたいと思う。